

科目名	公民 I Civics I			担当教員	田口 淳		
学年	2年	学 期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	11120014	単位区分	履修単位
学習目標	心理学を通して人間に対する理解を深めるとともに、先哲の思想を学ぶ中で、社会人としての人生観・世界観・価値観の形成を目標とする。						
進め方	講義形式を基本とする。要点は板書もしくはプリントを配布しながら進めていく。 適宜、簡単な心理テストの実施、また討論や視聴覚教材を通して、各自の思索が深まるようにする。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 青年期の課題と自己形成 (1) 青年期の意義(7) (2) 青年期の課題と生き方(7)			青年期の特徴を理解するとともに、青年期に生きる自分自身の課題を明確にすることができる。 学習・教育目標：(A)			
	[前期中間試験](1)						
	2. 人間としての自覚 (1) 哲学と人間 ・哲学すること(2) ・ギリシャの思想(10) 自然哲学者、ソフィスト ソクラテス、プラトン アリストテレス、エピクロス ゼノン ・中国の思想(3) 諸子百家、孔子、孟子、荀子 老子、莊子、朱子、王陽明			哲学の定義及び動機について理解することができる。 理性を重視した古代ギリシャの哲学思想・倫理思想の基本的な内容が理解できる。 中国古代の思想の流れと基本的な倫理観が理解できる。 学習・教育目標：(A)			
	前期末試験						
	(2) 宗教と人間 ・宗教とは？(1) ・キリスト教(5) ・イスラーム(3) ・仏教(5)			宗教の本来のあり方や必要性を理解することができる。 ユダヤ教・キリスト教・イスラーム・仏教の基本的な教義及び倫理観を理解することができる。 学習・教育目標：(A)			
	[後期中間試験](1)						
3. 現代を生きる人間の倫理 (1) 人間尊重に向けて ルネサンス(5) 宗教改革(3) (2) 人格の尊厳(7)			ルネサンス・宗教改革がもつ人間尊重の基本的精神が理解できる。 カントの道徳法則や自律の概念を手がかりとして、「人間の尊厳」の思想的根拠を理解することができる。 学習・教育目標：(A)				
後期末試験							
評価方法	評価の内訳は、レポートの提出状況 10%、定期試験 90%とする。 学習項目ごとの全体評価への重みは、1, 2(1), 2(2), 3の4項目すべて各 25%とする。						
履修要件	特になし						
関連科目	歴史 I（1年）→歴史 II（2年）→公民 I（2年）→人文科学 II（4年）						
教 材	教科書：平木幸二郎 他著『倫理』 東京書籍						
備 考	○オフィスアワー 原則として毎週月曜日の放課後 ○担当教員への連絡先 TEL：087-869-3842, E-mail：taguchi@t.kagawa-nct.ac.jp						